

第2回 八頭町自治基本条例（仮称）策定委員会 会議録（概要）

日 時：平成21年5月1日（金）19:00～

場 所：八頭町役場 本庁舎 3階 会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 学習会

■「自治基本条例制定に向けて」（講師：上田委員長）

＝ 自治基本条例の基本的要件、条例のポイント、注意点等について学習し、委員の自治基本条例に関するさらなる理解と委員相互の共通理解を図った。

【 内 容 】

(1) 自治基本条例の要件

- ① 最高法規性を有する必要性
- ② 罰則規定について
- ③ 自治基本条例の規定内容

(2) 自治基本条例制度各論

- ① 前文について
- ② 町民の権利・責務について
- ③ 情報共有の原則
- ④ 参画について
- ⑤ 協働について
- ⑥ コミュニティについて

(3) 注意点

- ① 町民の定義
- ② 町民の権利・責務
- ③ 住民投票について
- ④ 政見公約（ローカルマニフェスト）について

4. 意見交換

■ 「まちの課題について」

＝ 学習会の内容や「まちの課題」、「八頭町がこんなまちだったら良い」などについて意見交換を行った。

【意見】

<事務局>

＝ 策定にあたっては、条文中の「議会」の部分と「政見公約」がポイントになるのではないかと考えている。

<委員長>

＝ 議会の可決なくして条例制定はないが、その事を気にし過ぎるあまり、「この策定委員会の案として最初から規定しない」ということではなく、この会でしっかり検討した上で提案し、議会との妥協点を見出していくべきだと思う。

また、リーダーシップを発揮して政治責任を果たしてもらの意味でも「政見公約」の条文はやはり必要だと思っている。

≫ 前回も出た意見だが、私たち委員は、議員のように選挙で選ばれた住民の代表ではないので、私たち委員の意見だけで案を決めてしまうのではなく、この会の進捗状況を町民に示すことや、町民の意見を吸い上げることが必要だと思う。

<委員長>

＝ フォーラムを開催することや地域（集落）への意見募集、パブリックコメントの実施などは必要だと思う。

ただ、自治基本条例に対する「町民の意識」の度合いによって成果が変わってくると思う。町民の「機運」が盛り上がらないと、フォーラムなどを開催しても、参加者が少ないなどの場合、成果が低いことになってしまう。

<事務局>

＝ 広報誌にこの策定委員会の状況（会の趣旨や模様）を掲載して、町民に周知したいと思う。

また、他の自治体はこの条例の策定において「行政まかせ」になっているように感じている。やはり、住民が主体となって作っていくべきもので

あると思っている。

<委員長>

＝ 鳥取市は自治基本条例がすでに制定されているが、制定されてからも認知度はかなり低い。策定途中にいたっては、ほとんど知られていなかった。

「町民の機運」を盛り上げるような手法については、委員の皆さんにも考えていただきたいと思っている。

≫ 「まちの課題」などは、日々暮らしているなかでは、今までほとんど考えてもみないことだった。この度、息子に聞いてみると「平和に、楽しく暮らしているので、特に不満はないが、ただ『若者の流出』が気になる。」と言っていた。

また、私は、県外の四国からこの鳥取県八頭町に来たが、ここには、田舎特有の「よそ者」を受け入れられないような閉鎖的な風土、気質があるように感じるし、それによって「悲しい」と思ってしまうような経験がある。

誰でも受け入れて、一人ひとりが協力し合いながら、みんなで良い方向に行くようなまちになってほしいと思う。

<委員長>

＝ 確かに、誰でも広く受け入れるような意識付けは大切かもしれない。「意識」というより、「覚悟」と言ってもいいかもしれない。

「仕事がない」、「子育てが大変」といった状況があるので、都会への若者の流出や人口の減少などの問題が起こっているのかもしれない。

≫ 八頭町には「活力」がないように感じる。人というより「まち」全体に活力がないように思う。

町民の誰にでも言えることだが、特に議会議員や女性の方には、自分の「ビジョン」、つまり考えをもっと訴えていてもらいたい。

まちの事業はいろいろとあるが、「事業と事業とが連携できているか」、「つながりがあるかどうか」疑問に思っている。小さなグループの中だけの活動になってしまっていないかと感じている。「まち」全体として、つながってほしい。

「八頭町に住んで良かった」と思えるような気持ち、すなわち「満足度」が大切だと思う。何か住民同士の思いや意見がはっきりと明確になっていない気がする。「まち」全体がつながっていないような感じがする。

≫ 何か、皆が働き過ぎていて「ゆとり」がないのではないか。だから、活力が無いのではないか？もっとケジメをつけたメリハリのある仕事の仕方をして、ゆとりを持って「文化」を楽しむような暮らしが大切だと思う。

忙しいこともいいかもしれないが、「ゆとり」を持ち、たくさんあるまちの資源についてもっと学んでほしい。

<委員長>

= 「郷土愛」というような部分も大切かもしれない。

≫ 田舎では、昔から「忙しい」ことが美德であるというような価値観があるのではないか？

ただ、田舎に住んでいる人はなかなか気付かないかもしれないが、外の人から見ると田舎にはすばらしい環境があると思う。「空気がきれい」、「緑が多い」、「海に近い」などの条件は、子育てには大変良い環境だと思うようになってきた。

八頭町の人には「ないのではなく、ある。」ということに気付くべきではないか？

<委員長>

= 今の時代、共働きをしないと生活していくこともなかなか大変だと思うが、共働きをしていくなかでの育児などについてはどう考えますか。また、核家族化による影響などについてどう感じますか？

≫ P T A や地域活動へ参加が難しい状況になっているのではないか？

≫ 所得が少ないし、将来に備えての貯金などを考えると経済的に苦しいということがある。

<委員長>

= 仕事が無くなれば、生活に直結することになるでしょうし、働く場所がきちんと確保されていることは重要でしょう。

≫ 八頭町に住むようになって、感じることもある。それは、皆が「何をいっても変わらない」と思っているのではないか。また、まちづくりに参加できると思っていないから、皆が積極的に参加しないのではないか。

かといって、リーダーシップをドンドン発揮する人がいたとしても、それについて行かずに、引いてしまう人が多いのではないか。

それと、委員の方々のなかには、若い方が多いので、この会で若い人の意見を代弁していただき、その意見が条例に反映されれば、本当に素晴らしいことだと思う。

≫ 八頭町の中でも、「中心部」と「農村部」でコミュニティに対する意識に差があると思う。農村部は同居が多く、子育てに関しても各地域間で差があると思し、過疎問題にしてもそうだと思う。

農村部は、農作業など自分の仕事以外にも家庭の仕事がたくさんあり、本当に忙しいと思う。特に高齢者の方は「忙しいのが美德」と感じる人が多くいて、女性が会合に出て家を空けることがあると「文句」を言われたりすることも多いと聞く。

<委員長>

= コミュニティの重要性やその支援などは、条文にも盛り込めることです。

≫ まちの現状を把握するために、「現場」に出掛けるような機会はないでしょうか。

<委員長>

= フォーラムなどの開催によって、町民にまちづくりについて投げ掛けるような場面を作っていく必要はあると思いますし、町民に情報提供するような機会も設けるべきだと感じる。ただ、「まちの現状」については、この八頭町に住んでいらっしゃる皆さんが委員としてこの会に参加しておられるので、皆さん方から意見を出していただければ良いのではないのでしょうか。

※ 次回は、今回配布した「総合計画」の内容を見ていただいたうえで、「こんなまちになってほしい」など「まちの課題」や「まちの将来像」、「まちの理想」について意見交換を行う。

4. 閉 会

以 上。